

2005年10月15日プレスリリース

山口情報芸術センター(YCAM) presents

Post Theater

「6 feet deeper」 「skinSITEs」

ポストシアター「6フィート・ディーパー」「スキンサイト」



日時：2005年10月22日(土) 19:00 開演／23日(日) 14:00 開演
会場：山口情報芸術センター スタジオ A

主催：財団法人山口市文化振興財団、Dance and Media Japan、d.i.S.PLAY

助成：財団法人セゾン文化財団 (Dance and Media Japan に対する助成です)

協力：東京ドイツ文化センター

制作：YCAMInterLab

企画制作：山口情報芸術センター

【作品解説】

「6 feet deeper」-----

砂漠の砂、鞭の音。『6 フィート・ディーパー』はウィップ・クラッキング（鞭鳴らし）に縁のある2人、アメリカ西部開拓時代に唯一の女性カウボーイとして世にその名を轟かせた「カラミティー・ジェーン」、そして超音速気流の研究からマッハ数の概念を提唱したオーストリアの物理学者「エルンスト・マッハ」の物語を軸に展開します。

西部開拓鉄道建設に貢献したブル・トレイン（牛の列車）を西へ西へと動かす原動力となっていたのはカウボーイが雄牛の耳元で炸裂させた超音速波衝撃音。雄牛の耳元で炸裂する鞭の音が雄牛たちを前進させ、鉄道を普及させたのです。そして文明はありとあらゆる辺境の地へと足を伸ばし、わたしたちの距離と時間の感覚、世界観を変えていくこととなりました。

舞台の表面を覆う砂漠の砂。この砂の上でマーレン・シュトラックは鞭をさまざまな姿に変えながら、歴史上の人物として語り、過去とフィクションを混ざりあわせながら、自らの肉体、歴史、そして彼女の祖先の物語を掘り下げ、これまでに観たことのないパフォーマンスへの世界へと観客を誘います。

※6フィートは約183センチ。鞭の長さであり、棺桶が埋められる深さでもあります。

[出演] マーレン・シュトラック

[コンセプト] マックス・シューマッハー／マーレン・シュトラック／棚橋洋子

[演出] マックス・シューマッハー／マーレン・シュトラック

[メディアデザイン／インスタレーション] 棚橋洋子

[ドラマトウルク] マックス・シューマッハー

[音響] マックス・パウワー

・日本語版制作

[翻訳] 長島 確

[ナレーション] 遠藤芽里／梶村良太郎／アンドレアス・バルツ／

キンバリー・ブラッドリー／ジュリー・ランドール

[収録] マックス・パウワー

[プロデュース] 東京：飯名尚人 ベルリン：ポストシアター／マーレン・シュトラック

[マネージメント] 恵志美奈子 (d.i.s PLAY) / 上原佐和己 (Dance and Media Japan)

“美しく、素晴らしく、同時におもしろく、おかしい。砂上の小さなバーチャルな生き物たちを鞭を使って操る様子は、魔術師のようにとても幻影的だ。砂上に映る多数に分裂した自身の分身とシャドーダンスをするところはたえようもなく美しい。鞭の一振りでサウスダコタの蜃気楼は消えゆく。何度も見たくなる作品だ。”

(マルベ・グラディンガー、ミュンヘン地方新聞、2004年1月17日)

“マーレン・シュトラックは独自の方法でビジュアルアートとダンス、オブジェクトとサウンドを組み合わせる。ユーモラス、詩的、そして少々皮肉屋な彼女を人は好きになる。彼女が頭上で鞭を振り回すと観客は鞭のうなりが風を切るのを身をもって感じ、腹の中にその余韻が鳴る。足下のビデオが地面の振動を描く。ビデオに映る鞭を手にしたミニチュアサイズの女性軍団を彼女は鞭の一振りで現れたり行進したりする。彼女がビデオに命令を下しているのだろうか？それとも彼女がこの美しいビデオに反応しているのだろうか？どうでもいいことだ。30分の素晴らしい公演を見終えた後、我が子の問いに答えることができる：“ママ、どうして鞭は鳴るの？”

(カチャ・シュナイダー、ドイツ南部新聞、2004年1月17日)

「skinSTEs」 -----

「skinSITes」は、メディアの存在とその外観がいかにかパフォーマンスの内容に適しているかということに重点を置き、メディア、パフォーマー、そして観客との相互関係を最大限に考慮し、公演空間の建築的要素、建物とそれを取り巻く歴史と社会的背景に関するフィールドワークを行い、その結果を作品に取り込んで、公演ごとに、特定の空間に最も適したマルチメディアパフォーマンス作りを目指すシリーズです。

skinSITes シリーズの初演は、2002年にバウハウス財団（デッサウ）の後援で、今日では廃墟と化した、巨大な旧ビール醸造所で行われました。その後、古い歴史を誇るハレシヤス運河劇場（2003年、ベルリン）、国内最古の旧発電所（2004年、リュブリャナ）、パトラヴァディ劇場の伝統芸能保管所（2004年、バンコク）で、常に新しく作り替えられながら、ヨーロッパやアジア諸国で公演されてきました。

作品のテーマは“中間状態”。例えばベルリン公演では、ハレシヤス運河劇場が、ヘーベル劇場（HAU3）という新しい劇場に生まれ変わる際に公演されました。長く働いていた愛着残る職場を去らなければならない、旧劇場のスタッフ（元振付家）が、大きな変化の只中で揺れる心中を、普段は一般観客には立ち入り禁止の舞台裏にあるドアにて、表現しました。スロベニア公演では、長い間放置されていた旧発電所が、ようやく劇場として生まれ変わる様を描きました。

場所が持つ意味によって物語が生成されていく「サイト・スペシフィック」なパフォーマンスです。

[コンセプト/演出] 棚橋洋子

[ドラマトゥルグ] マックス・シューマッハー

[ダンス] 大脇理智

[音響/映像] 棚橋洋子

[プロデュース] 東京：飯名尚人 ベルリン：ポストシアター／マーレン・シュトラック

[マネージメント] 恵志美奈子 (d.i.s PLAY) / 上原佐和己 (Dance and Media Japan)

【アーティスト・プロフィール】

Post Theater (ポストシアター) www.posttheater.com

ポストシアターは、劇場でも、劇団でもありません。

さまざまな専門性を持ったアーティストや研究者たちから構成されるアーティストのグループです。演劇を出発点とし、世界中から集まったメンバーが「ポストシアターというシンクタンク」を用いて作品を変容させていきます。形式、ジャンル、使用するメディアもその都度変化し、発展していきます。

ポストシアターの最も特徴的なスタイルは「サイトスペシフィック(場)」「ドラマ(物語)」そしてそれらを浸透させていく「ネットワーク(人)」です。

国籍、文化、専門分野が異なるメンバー、スタッフのアイデアを集結させ、緻密に構成していく作業により、柔軟で先駆的な作品創作のスタイルを築いています。

1998年、ニューヨークにて設立。

これまでの主な作品 『ラストサーカス』 老年のサーカス座長の最後のサーカスを観客が体験するインスタレーション演劇。『ヘブンリー・ベントー』 SONY 設立の歴史を物語の軸とし、会議室でその風景を眺めるように鑑賞するメディア・パフォーマンス作品。

演劇的要素とインスタレーション、パフォーマンスを融合させた演出が特徴。いずれの作品もメディア・テクノロジーを駆使しつつも、親しみやすさ、作品としての面白さを徹底追求している。

【概要】

Post Theater 「6 feet deeper」 「skinSITes」

ポストシアター「6フィート・ディーパー」「スキンサイト」

日時：2005年10月22日(土) 19:00開演 23日(日) 14:00開演 (各回30分前開場)

会場：山口情報芸術センター スタジオA

山口市中園町7-7 TEL. 083-901-2222 FAX. 083-901-2212

料金：全席自由 (税込)

一般1,500円 学生/特別割引1,000円 any会員招待

チケット取扱：山口市文化振興財団チケットインフォメーション：

TEL. 083-920-6111 (受付時間10:00~19:00 火曜休館 祝日の場合は翌日)

ローソンチケット：TEL. 0570-063-006 Lコード67655

・特別割引について

特別割引は、青少年(18歳未満)、シニア(65歳以上)、障害者及び同行の介護者1名が対象。

山口情報芸術センター、山口市民会館、山口南総合センターのみの販売となります。

・託児サービス

対象：0才以上 託児時間;開演の30分前から終演後30分後まで

料金：お子様1人につき500円、2人目以降は1人につき300円

申込方法：各公演日の8日前までにチケットインフォメーション(TEL083-920-6111)までお申し込みください。

<山口情報芸術センター(YCAM)へのアクセス>

* 山口宇部空港から

・乗合タクシーでYCAMまで 約1時間(1500円) ※前日18:00までに予約が必要 大隅タクシー 0120-31-0860

・空港連絡バスでJR新山口駅まで 30分(870円)

* JR新山口駅から

・JR山口線湯田温泉駅下車、徒歩20分/タクシー5分

・JR山口線山口駅下車、徒歩20分/バス10分(中園町か済生会病院前下車)/タクシー5分

・防長バス25分、中園町下車

* 自動車利用

・山陽自動車道で防府東ICから30分 ・九州

・中国自動車道で小郡ICから15分

お問い合わせ：

山口情報芸術センター 企画：岸 正人

〒753-0075 山口県山口市中園町7-7 山口情報芸術センター

TEL. 083-901-2222 FAX. 083-901-2216

E-mail. information@ycam.jp

http://www.ycam.jp/ http://mobile.ycam.jp/ (携帯用)